Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第30号
2024年（令和六年） 11月8日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（10月31日～11月6日）の国際石油市場は、イランによるイスラエル再報復攻撃懸念が高まる中、OPECプラスの減産緩和延期の発表もあり、堅調に推移したが、6日にはトランプ候補当選確実の見通しで、エネルギー政策の先行き不透明感から、一転軟化した。

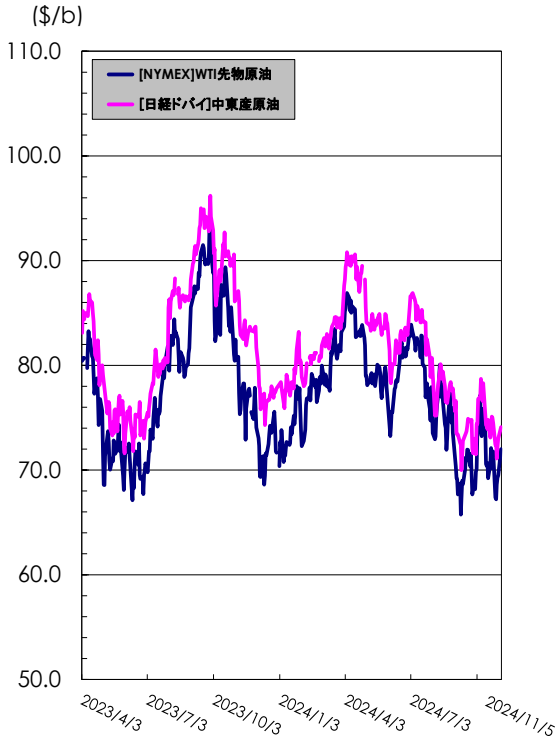
NYのWTI原油先物市場は、31日、続伸の69.26ドルで始まり、週を跨いで、5営業日続伸、5日には71.99ドルまで回復したが、6日は6日ぶり反落の71.69ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）も、前週（10月24日～30日）は71.10～75.00ドルの範囲で推移したが、当週は、10月31日72.20ドル、11月1日73.00ドル、5日74.10ドル、6日73.20ドル。

対ドル為替レート（TTM）は前週（10月24日～30日）152.16～153.45円の範囲で推移したが、当週は、10月31日153.64円、11月1日152.05円、5日152.43円、6日152.85円となった。

そのような中で、11月5日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.3円安、軽油は同0.2円安、灯油も同2円安（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.5円となった。11月7日～13日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は14.9円（補助金がない場合の次週予想価格189.7円で、168円から185円の補助率60%支給部分10.2円、185円を超える補助率100%支給部分は4.7円）と、前週比1.8円の減額となった。

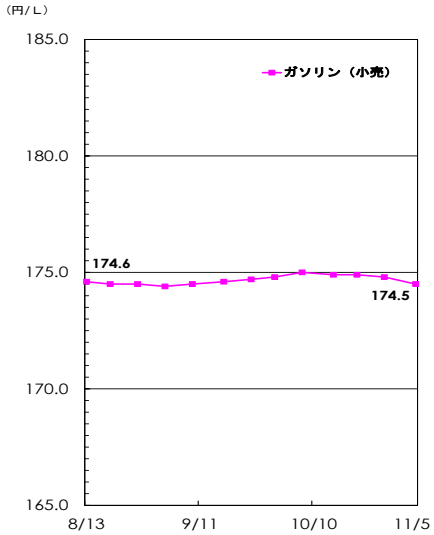
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	10/27 ～ 11/2	2,623	▲ 27	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	75.8	▲ 0.8	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	11/2	10,498	▼ -105	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	11/5	74.10	▲ 1.70	▼ -13.0
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	11/4	71.47	▲ 4.09	▼ -9.3
	原油CIF単価	（$/bbl）	10月上旬	81.16	▼ -0.53	▼ -11.60
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	73,096	▼ -137	▼ -13,763
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	143.19	▼ -0.66	▲ 5.68
	外国為替TTSレート	（¥/$）	11/5	153.43	▲ 1.02	▼ -2.76



（単位：千kl、円/リットル）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/27 ～ 11/2	797	▲ 82	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	729	▲ 113	▼ –
	輸出		〃	52	▼ -74	▼ –
	在庫		11/2	1,699	▲ 16	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	10/29 ～ 11/4	80.0	▼ -0.8	▲ 3.0
		（TOCOM/中部）	11/1	78.9	➡ 0.0	▲ 3.9
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	11/5	174.5	▼ -0.3	▲ 1.1

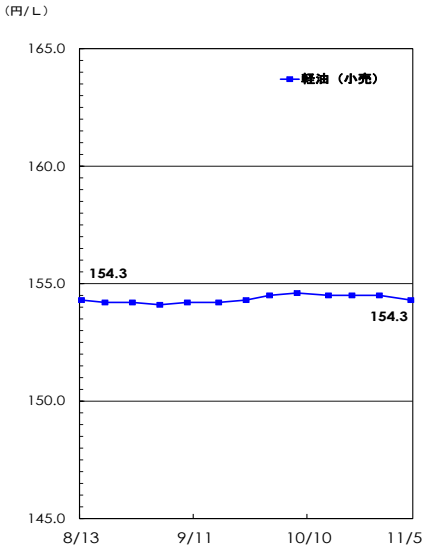
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

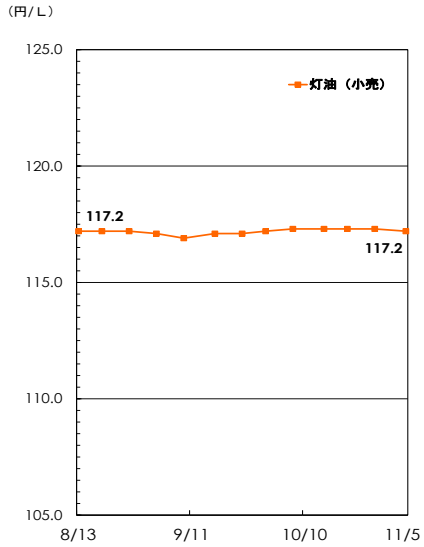
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/27 ～ 11/2	666	▼ -5	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	538	▲ 18	▼ –
	輸出		〃	142	▲ 68	▼ –
	在庫		11/2	1,484	▼ -15	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	10/29 ～ 11/4	81.2	➡ 0.0	▲ 4.0
		（TOCOM/中部）	11/1	–	–	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	11/5	154.3	▼ -0.2	▲ 1.3

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/27 ～ 11/2	190	▲ 33	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	104	▲ 14	▲ –
	輸出		〃	0	▼ -51	➡ –
	在庫		11/2	2,717	▲ 86	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	10/29 ～ 11/4	80.0	➡ 0.0	▲ 4.0
		（TOCOM/中部）	11/1	81.0	➡ 0.0	▲ 4.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	11/5	117.2	▼ -0.1	▲ 1.4



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（10/24～10/30）のNYMEX・WTI先物市場は67.21～71.78ドルの範囲で推移した。

当週、10月31日は、OPECプラスが12月からの減産緩和（増産）の先送りを検討中との報道、前日の予想外の米国原油在庫の取り崩し報告を受け、需給緩和感が後退、さらに、イランはイスラエルへの報復攻撃を準備中との報道で、中東の緊張は高まり、続伸した。中心限月12月物終値は前日比0.65ドル高の69.26ドル。

週末11月1日は、米国の10月製造業景況指数（PMI ）・雇用者統計の減速といった 値下がり要因はあったものの、イランのイスラエル再反撃が迫っているとの観測は高まり、3営業日続伸した。12月物終値は同0.23ドル高の69.49ドル。

週明け4日は、3日のOPECプラスの12月から予定していた各月18万BDずつの自主減産緩和（増産）開始を1か月延期するとの決定の発表を受け、4日続伸、70ドル台を回復した。12月物終値は同1.98ドル高の71.47ドル。

5日は、米国の10月の非製造業景況指数（PMI）の改善、また、メキシコ湾で発達中の熱帯低気圧の供給懸念を受け、5日続伸した。ただ、米国大統領選挙の投票を控え、エネルギー政策等の不透明感から、上値は限られた。12月物終値は同0.52ドル高の71.99ドル。

6日は、5日の米大統領選の投開票でトランプ前大統領の当選確実で、石油・ガスの増産の一方、中国敵視政策で中国景気の一層の後退、他方、インフレ政策の継続で好景気期待もあって、硬軟それぞれの要素もあったが、この日発表の米国石油在庫報告が、予想以上の積み増しで、需給の緩みが感じられ、6日ぶりに反落した。12月物終値は同0.30ドル安の71.69ドル。

2　海外/米国石油市場

11月6日発表の1日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間石油在庫統計は、原油在庫が前週比210万バレル増と、積み増し幅は市場予想（110万バレル増）を上回り、ガソリン在庫も40万バレル増、中間留分在庫は290万バレル増と、いずれも市場予想に反して増加し、需給緩和感が高まった。

EIAによると11月4日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.8セント安の1ガロン3.069ドル（123.9円/㍑）と3週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.7セント安の1ガロン3.536ドル（142.8円/㍑）と2週ぶりの値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、11月1日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基減の479基となった。

3　国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年10月27日～11月2日に休止したトッパー能力は36.9万バレル/日で、前週に対して4.0万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は262.3万klと、前週に比べ2.7万kl増加。前年に対しては16.0万klの減少。トッパー稼働率は75.8%と前週に対して0.8ポイントの増加、前年に対しては1.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて軽油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/11.5%増、ジェット/16.7%増、灯油/21.0%増、軽油/0.8%減、A重油/9.1%増、C重油/34.9%増。今週のC重油の輸入は0.6万kl（前週比0.6万kl増）。軽油の輸出は14.2万kl（前週比6.8万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は前週に比べてジェットが減少し、その他の油種で増加した。前年比では灯油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は72.9万kl（対前週18.3%増）と2週振りに増加した。ジェット-0.7万kl（対前週108.5%減）、灯油10.4万kl（対前週15.6%増）、軽油53.8万kl（対前週3.4%増）、A重油17.5万kl（対前週9.9%増）、C重油14.2万kl（対前週51.7%増）。

（単位：千KL）

	今週 (10/27 ~ 11/2)	前週 (10/20 ~ 10/26)	前週比
ガソリン	729	616	▲ 113 (18%)
ジェット燃料	-7	77	▼ -84 (-109%)
灯油	104	90	▲ 14 (16%)
軽油	538	520	▲ 18 (3%)
A重油	175	159	▲ 16 (10%)
C重油	142	93	▲ 49 (53%)
合　計	1,681	1,555	▲ 126 (8%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

4　国内/製品在庫量

11月2日時点の在庫は、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは169.9万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては0.9万kl多い。

灯油は271.7万kl、前週差8.6万kl増。前年に対しては49.6万kl少ない。

軽油は148.4万kl、前週差1.5万kl減。前年に対しては20.2万kl多い。

A重油は76.5万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては3.3万kl少ない。

C重油は180.3万kl、前週差4.8万kl増。前年に対しては16.4万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (11/2)	前週 (10/26)	前週比	
ガソリン	1,699	1,683	▲ 16	(1%)
ジェット燃料	946	847	▲ 99	(12%)
灯油	2,717	2,631	▲ 86	(3%)
軽油	1,484	1,499	▼ -15	(-1%)
A重油	765	754	▲ 11	(1%)
C重油	1,803	1,755	▲ 48	(3%)
合　計	9,414	9,169	▲ 245	(2.7%)

5　国内/元売会社製品卸価格

10月29日～11月4日のドル建て中東原油価格は前週比値下がり、為替レートは同円安となり、これをわずかに相殺したが、元売会社の卸建値は値下がりしたものと見られる。ただ、補助金の減額が建値の値下がりを上回り、11/7～11/13の実質卸価格はわずかに値上がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

11月5日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の174.5円、軽油は同0.2円安の154.3円、灯油も18㍑ベースで同2円安の2,110円（1㍑ベースでは0.1円安の117.2円）。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油は3週ぶりの値下がり、灯油は8週ぶりの値下がり。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが13府県、横ばいは8県、値下がりは26都道府県だった。全国最安値は愛知県の167.8円、その次は宮城県の168.0円であった。他方、最高値は長野県の184.3円。最も値上がりしたのは沖縄県（同1.5円高）、最も値下がりしたのは和歌山県（同1.6円安）だった。

次回調査時（11/11）のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(11/5)	前週　(10/28)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	174.5	174.8	▼ -0.3	23/9/4	186.5
	灯油	117.2	117.3	▼ -0.1	08/8/11	132.1
	軽油	154.3	154.5	▼ -0.2	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第31号）の公表は、11/15（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。